キャリア合宿セミナー2013日程案

豊富な経験を有する講師とともに、働くとは何か、そして仕事と地域や世界とのつ ながりについて考えます。テーマ別の分科会ごとに、ワークショップやディスカッ ションを取り入れた、合宿形式の集中授業です。

〈国際キャリア開発、国際実務英語共通>



١		
١	9:00~ 9:30	受付
	9:30~ 9:45	開講式/オリエンテーション
	9:50~12:00	全体講義/ワークショップ
	12:00~13:00	昼食
	13:00~13:20	趣旨説明/発表のプレゼン方法説明
•••	13:20~14:50	分科会講師による講義
	15:10~16:40	パネルトーク
	16:50~17:50	分科会
•••	18:30~20:00	交流会



7:30~ 8:20	朝食	
8:30~12:00	分科会	
12:00~13:00	昼食/記念撮影	
13:00~15:30	分科会	
15:30~17:30	分科会まとめ/中間発表準備	
17:30~18:30	中間発表	
18:30~19:30	夕食	
19:30~21:30	発表準備(自由)	



朝食 7:30~ 8:20 9:00~12:00 全体発表 12:00~13:00 振り返り/意見交換/全体総括 等 13:00~15:00 15:00~15:15 閉講式 バスで宇都宮駅・大学に移動・解散 15:30 (現地解散も可)





2013 合宿セミナー開講!!

国際ビジネス、国際協力・国際貢献、 多文化共生と日本、異文化理解・コミュニケーション



グローバル時代のキャリア形成を考える

国際キャリア開発

日時: 2013年8月31日出 9:30

~9月2日(月) 15:15

定 圖:80名(先着順)

国際実務英語 日時: 2013年9月21日出 9:30 ~23日(月) 15:15

Globalization and Glocalization

定員:50名(先着順)

共通事項

参加費: 10.000円(食費、宿泊費込)

会場: コンセーレ (栃木県青年会館) 宿 泊 ※JR宇都宮駅西口からバスで15分程度 http://www2.ocn.ne.jp/~concere/access.html

詳細はホームページでご確認ください!!

国際キャリア開発プログラム 検索

http://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/career-program/



催: 宇都宮大学

催:大学コンソーシアムとちぎ 協力大学:白鷗大学

援:栃木県、(公財) 栃木県国際交流協会、いつくら国際文化交流会、JICA地球ひろば

協 賛: (一財) 栃木県青年会館、(公財) あしぎん国際交流財団、キリンビールマーケティング(株) 栃木支社

申し込み方法

申込方法:1.申込フォームから(http://www.kokusai.utsunomiya-u.ac.jp/career-program/registration/entry.html)

2.申込用紙の送付(申込用紙請求先メールアドレス:kokuca@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp)

申込開始:2013年6月17日(月) 申込締切:2013年7月28日(日) (定員になり次第締め切ります。)

参加費振込:申込受付後、事務局からメールにて連絡致します。(期限までに振込がない場合はキャンセル扱いと致します。)

問い合わせ先

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350 TEL.028 (649) 5172/FAX.028 (649) 5171 E-mail kokuca@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

国際キャリア開発



今求められるグローバル人材とは?

講師:田巻 松雄 宇都宮大学 国際学部長

全体講義内容:

「地域のグローバル化」と「地域からのグローバル化」に対応する「グローバル人材」育成の意義と課題をキャリアという視点に引き付けてお話しします。 プロフィール:

1956年生まれ。宇都宮大学国際学部長。筑波大学大学院社会科学研究科修了。社会学博士。1996年より宇都宮大学国際学部に勤務。2008年、国際学部が地域の国際化を推進 する教育研究拠点として開設した多文化公共圏センターの初代センター長に就任。現在、外国人児童生徒支援を目的とする宇都宮大学HANDSプロジェクト研究代表を務める。



A.「前例が無い!だからやってみよう!」

講師:秋元 信彦

株式会社パン・アキモト 本社営業部 部長 なんでも係

分科会内容:

当社が何故パンの缶詰の開発をしたか?

何故救缶鳥プロジェクトを立ち上げたのか?

何故海外展開を始めたか?

何故当社の社員は大きな声で挨拶ができるのか?

等々、主に私が経験した失敗談より「諦めなければ必ず道は開ける」等の内容でお話し致します。

1979年生まれ。栃木県黒磯南高校卒業。トラベルジャーナル旅行専門学校卒業

コンコーディアユニバーシティーカリフォルニアへ 1 年半の遊学 (米国同時多発テロ発生の為、帰国)

2001年 株式会社HISに入社

2007年 株式会社パン・アキモト入社

2012年 TREP (とちぎ良品エキスポートプロジェクト) 立ち上げ

B. HIV/AIDSから考える世界と日本

~自分たちのエイズ・キャンペーンを創ってみよう~

日本コカ・コーラ株式会社 広報・パブリックアフェアーズ本部 コミュニティコネクションズ マネジャー

目的は二つ。HIV/AIDSをサンプルに、世界の課題と自分とのつながり

を考えること。そして、自分たちのエイズ・キャンペーンを削ってみること。動きましょう。

プロフィール:

1977年生まれ。津田塾大学卒業後、ニューヨーク大学大学院で国際地域保健教育を専攻(公 衆衛生学修士号)、IOMカンボジア事務所インターンを経て帰国。民間企業で広報・社会貢献 活動を担当する傍ら、国内外のエイズ対策キャンペーンの企画実施、助成金の審査、企業での 社内啓発・支援活動などに広く取り組む。

国際協力・国際貢献

C. 何のための国際協力:

"援助"の功罪と"寄付"の是非を考える

講師:湯本 浩之

宇都宮大学留学生・国際交流センター准教授

分科会内容:

タイ北部の少数民族の村でたまたま見かけた1枚の看板。「この村の小学校 に10ドル寄付して下さい」との呼びかけに、あなただったらどうするか?国際協力を疑似体験 するワークショップを通じて、"援助"や"寄付"のあり方や問題点について考えます。

大学卒業後に在中央アフリカ共和国日本大使館に2年間在勤。帰国後、NGO活動推進センター 事務局次長、開発教育協会事務局長、立教大学文学部特任准教授などを経て、この4月より現 職。専門は、国際教育論(開発教育・グローバル教育・参加型学習など)。

D. ジェンダーの視点から考える開発協力

講師:甲斐田 きよみ

オーピーシー株式会社海外コンサルタント部 コンサルタント 愛知淑徳大学大学院グローバルカルチャーコミュニケーション研究科 非常勤講師 (ジェンダーと開発)

分科会内容:

徐 上国の開発問題において、ジェンダーに関わる課題とは何か、ジェンダー の視点から開発協力を実施するにはどうすればよいのか、アフリカでの事例を基にしたロール プレイを通して議論します。

東京都庁、青年海外協力隊(ニジェール)、国連ボランティア(レソト)、JICAジュニア専門 員(ジェンダーと開発)、JICA専門家(ナイジェリア)を経て現職。ジェンダー、コミュニ ティ開発を専門とし、アフリカで女性の生活向上及び行政官の能力向上支援に携わる。名古屋 大学大学院国際開発研究科博士後期課程満期退学。

多文化共生と日本

E. 外国人生徒から教わったこと

講師:若林 秀樹

宇都宮大学国際学部 特任准教授

分科会内容:

日本での外国人児童生徒教育の現状と課題を知り、学校や社会のあり方に ついて議論する。また講師自身、教員として外国人生徒に関わりながら考

え方や生き方が変容していった経緯に触れ、職業観や人生観についても自由に討論したい。 プロフィール:

1962年生。栃木県公立中学校教諭を24年勤め、内15年間は外国人児童生徒教育に携わる。栃 木県内の外国人児童生徒教育分野での支援者ネットワーク構築、初期指導教室設置の提案、不 就学対策などの活動に傾倒。2005年より宇都宮大学重点推進研究「外国人の子どもたちの教 育・生活環境をめぐる問題」に関わり、2008年より「外国語特別講義 | ポルトガル語非常勤 講師」を経て、2010年4月より現職。1997年4月から2011年3月まで栃木県警民間通訳 人。著書は『教員必携 外国につながる子どもの教育』シリーズ(宇都宮大学HANDSプロ ジェクト刊) ほか。

F. 観光まちづくり

株式会社テラクリエーション 代表取締役 (公社) 栃木県経済同友会 国際化推進委員会委員長

プロフィール:

少子高齢化が進むわが国にとって、国内観光需要を喚起することは交流人口 の増加につながり、それは単に観光産業にのみ寄与するものではなく、地域 の振興、活性化・観光とは直接関わりのない商工業の発展にも影響を及ぼす。 分科会では、全国各地で行われている観光まちづくりの事例を基に議論を進め、地域を核とし

た観光プランを作成する。

1960年長野県生まれ。東海大学工学部経営工学科卒業後、計測器開発ベンチャー企業に就職、主に本田技術 研究所向けのデバイス性能試験システムの開発及び、システムエンジニアリングを担当。America Honda Motor Co.,Inc.、ルノーサムスン自動車などで現地業務に従事。その後独立、1998年(株) テラクリエーショ ンを設立現在に至る。2011年より(公社)栃木県経済同友会・国際化推進量会委員長。「アジアを中心とし た観光客誘致(2011年度~2012年度)」、「グローバル人材育成(2013年度~2014年度)を担当。

| 異文化理解・コミュニケーション|

G. 新聞とは、新聞記者とは ~地方紙記者10年の経験から~

講師:田面木 千香

下野新聞社 記者 分科会内容

新聞制作の過程をはじめ、実際の取材活動や記事執筆についてお話しするほか、

記事を使い、さまざまな側面を持つ社会事象をどう捉えるか、考える場も設ける予定です。 プロフィール:

1980年岩手県生まれ。1999年宇都宮大学国際学部国際社会学科に入学。中村祐司研究室。卒業 後、下野新聞社に入社。記者として足利総局、くらし文化部、政経部県政担当、日光今市総局に 勤務。現在の社会部社会班では、事件・事故の取材と、主に労働・教育分野を担当している。

H. 住空間デザインから異文化を見る

講師:野口 朝夫 野口朝夫建築設計所 代表

分科会内容:

いくつかの住宅プランを読み込み、日本とアジア、欧米の空間構成を比較 することで、日本の空間が持つ特徴と個性を明らかにし、住空間における

プロフィール:

早稲田大学で建築史を学び、吉村順三設計事務所にて建築設計に携わる。1982年 ラオスの 子どもに絵本を送る会(現 特活ラオスのこども)を設立。事務局長として運営にかかわる。ま た設計事務所を自営し、主に住宅設計に携わりながら、専門学校、大学でインテリア・住空間 を25年にわたり教える。現 日本デザイナー学院校長

国際実務英語(英語開講)



Local Challenges for Global Success

講師:ライマン アンドリュー

宇都宮大学国際学部 准教授

What are the most important skills needed to be successful in today's world? Globalization offers opportunities for visionaries and those able to challenge new ideas. Success in this rapidly changing world requires being able to adapt, predict, improvise and pioneer new ideas while challenging old ones. At the core of this skill set is an awareness, understanding and acceptance that differences, risk or uncertainty are not obstacles but resources.

プロフィール:

Andrew Reimann is from Vancouver, Canada and has a Ph.D. in Applied Linguistics from Macquarie University. He teaches classes on Comparative Culture Studies and Intercultural Communication. His research interests include raising cultural awareness and communication strategies. His recent publications include; Context, Culture and Communication, Culture Studies Handbook and Raising Cultural Awareness as part of EFL Teaching in Japan.

分科会

入門 Introductory Work Session

国際協力・国際貢献

A. Who Is a Community Leader? What Is Required for a Field Worker?

講師:アパウ ベルナルド ティモシー 学校法人アジア学院 講師、宣教師

分科会内容:

The character of a leader is very important in community developmen a community leader should be someone humble, action oriented, good mobilizer and whom his or her community understands and respects him/her. It should be a person who has the spirit of a servant leader.

Bernard Timothy Appau is from Ghana. He has studied agriculture in the Philippines, and Asian Rural Institute (ARI) in Tochigi, Japan. He teaches and practices organic

agriculture and community development in the Institute to train leaders from different countries. He has also worked for development projects including food aid to refugees from Ivory Coast in Ghana and distributed free treated mosquito nets to pregnant women and children under 5 years old as part of his involvement in the Christian

多文化共生と日本

C. Second Generation of South Americans in Japan: Building Professional Careers

講師:スエヨシ アナ 宇都宮大学国際学部 講師

分科会内容: In spite of being stigmatized as academic underachievers. a

conspicuous but unfortunately still limited second generation of South Americans are building their professional careers in Japan or in their homeland. The discussion will be focused on the determinant factors for overcoming academic adversity, the role of bi-culture on their career paths, parental and institutional support, among others.

Economic Advisor for the United Nations Development Program (UNDP) (1992-1993) Economic Advisor on Public Policy at the Ministry of Finance of the Government of Peru (1993-1997). Since 2006 teaches courses of Latin American Studies at the Faculty of International Studies, Utsunomiya University, Japan. She obtained her Master of Philosophy in Economic Development and Policy Management, and pursued doctoral studies at the Graduate School of International Political Economy (GSIPE) Tsukuba University, Japan. Her research has been focused on endogenous growth models and fiscal policy in Latin American countries, role of the state and neo-liberalism, and education of Peruvian returnee children after being in Japan.

多文化共生と日本

B. Thinking Through Walls

講師:モリソン バーバラ

宇都宮大学国際学部 講師

In this work group session we will be using the field of cultural studies as a means to think through differences of thinking; in this case, differences which create barriers that prevent understanding and inhibit, if not prevent, international resolutions to important issues

プロフィール:

In the International Department at Utsunomiya University I teach Cultural Studies - a relatively new field that was established in Scotland in the 1960's and grew out of a Marxist perspective. Cultural Studies shows us how we can think through cultural differences in productive and meaningful ways. During this seminar we will be using the type of thinking characteristic of Cultural Studies so that we can skilfully manage the demands of a global society.

異文化理解・コミュニケーション

D. Global Responsibility and Building **Bridges between Countries and Cultures**

講師:オオハマ リンダ

日系三世の映画監督、作家、ヴィジュアル・アーティスト 分科会内容:

From my own path, address the issues of global responsibility, networking, and work and living practises. How to start building ties between countries and cultures. How to prepare to fill a role and make a difference on the international stage through education, work, and volunteerism.

プロフィール:

Nikkei Canadian sansei. Linda Ohama, is a documentary filmmaker, visual artist, writer, and educator, who has been working in film for over 20 years. Her documentaries have been screened in the US, Canada, Europe, and Asia and received numerous awards. Since March 2011, Linda has been involved in volunteering and support for

中級以上 Intermediate Work Session

国際ビジネス

E. Building Mutual-Trust in Global Business 講師:中川 有紀子

株式会社ワコム グローバル人事マネージャー

分科会内容:

Regardless of Japanese capital or foreign capital, companies have to survive global competition under the borderless market. When you got the opportunities to participate or lead the project across countries what kind of mind-set and skills you need?

B.A. from Osaka University, school of foreign studies. Human Resources Management career at Mitsui Trust Bank, US Nomura Securities International, GE (General Electric) Japan HR manager

Ph.D. candidate of Keio University, Commerce of faculty, Phd School, Research fellow of Economic Observatory, Keio University, Visiting researcher of Institute for Transnational Human Resource Management, Waseda University. Part-time lector at International Business Communications, Takusyoku University. Foreign visiting lector at Yon-Sei University (Korea), Business School. Volunteer English teacher of NPO "Let's Talk Foundation" to support Rikuzen Takada.

国際協力・国際貢献

F. How to Change Japan into a Refugee-Friendly Country

講師:根本 かおる

元国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 職員、ジャーナリスト 分科会内容:

Japan is a signatory to the Refugee Convention and has supported the work of UNHCR or UN Refugee Agency as the second-largest

donor country. However, Japan has failed to offer asylum to those who ask protection. The participants will examine the role of different actors and design a strategy for

プロフィール:

After graduating from the Faculty of Law at University of Tokyo, Ms. Nemoto worked as an announcer and reporter at TV Asahi Corporation. She joined UNHCR after graduating from the School of International and Public Affairs, Columbia University, where she earned master's degree as a Fulbright scholar. Currently Ms. Nemoto works as an independent journalist and serves as a member of the board of directors of the Japan Association for UNHCR. She has released three books on refugees and writes on human rights and humanitarian issues in various media.









